

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

年度末の3月は、例年だと決算総会などが開催されるのだが、コロナ禍で書面表決や委任状で出席者を最小限に制限して開催する傾

向だ。簡素化で良いとの意見もあるが、会そのものの存続が危惧されるこの声も聞こえてくる。

「1月に行く」「2月は逃げる」「3月は去る」と言われるように、時の過ぎるのが本当に早いと感じるのは、家庭中心の生活に慣れたためだろうか。1

年以上にわたる新型コロナウイルス流行で地域経済が深刻な状況に追い込まれている中、緊急事態宣言解除の延期が決まった。またGOTOトラベルの再開も見通せない。春の観光需要にも、気兼ねな

く旅行できる雰囲気にもなっていない。特に心身の成長期の子どもたちへの影響が心配だ。子どもを豊かに育むには、外遊びが大切だ。「時間」「仲間」「空間」の3つの間(ま)が必要だと言われ

ている。大北地域は、野外体験できる要素が満載だ。これを活かす取り組みが今後更に重要になるのだろう。コロナ禍の影響もあるのか、さまざまな業界で「サブスク」が注目されている。「サブ

スク」はサブスクリプションの略で、料金を支払う事で一定期間製品やサービスを利用できる形式のビジネスモデルだ。これまでの「モノからコトへ」の消費行動から、商品を購入して消費するより

観光地ならではの「サブスク」機能の対応が求められている

感が味わえ、施設周辺に快適に過ごせる環境整備も年々整って

も、モノを使ってできる経験が求められているのだろう。あの伝統と格式のある帝国ホテルの「30泊36万円」や高級ホテルが続々と長期滞在プランを発売して、即日完売するなど人気を博し

ている。これまでウィークリーマンションのような週単位や月単位の契約はよく見かけたが、手ぶらで、客室清掃や朝食の提供、フロントなどのサービスなどが提供され、洗練されたサービスや高級

感が増え、施設周辺に快適に過ごせる環境整備も年々整って

きている。これまでリゾートを意識して、観光戦略を組立てた観光地には大きな脅威を与える事は避けられない。帝国ホテルが火をつけたサービスアパートメント(ホテルと賃貸



雪解けを待つ咲き出す福寿草、疲弊する経済に福の兆しを祈るばかりだ

マンションの中間的機能をもった住宅)が、既存の宿泊施設やサービスアパートメントの料金設定などにどのような影響を与えるのか。そして私たちの地

域の観光資源を利用した組合せで、付加価値ある観光商品にできるのかが問われている。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)